

013

エンタメと防災教育を共存させる 「消防車型キッチンカー」

取組主体

一般社団法人日本消防防災 UNITE 機構

従業員数

想定災害

実施地域

10人

全般

千葉県

・防災とエンタメを融合させ、防災を学ぶ入口を広く取っていくために、消防士と市民が交流し防災を学び体験できるイベントを企画・実施している。

1 取組の概要

防災とエンタメの融合、話題性で防災への関心を高める

- ・防災コンサルティングや防災資格の普及活動等に取り組む一般社団法人日本消防防災 UNITE 機構は、防災とエンタメの融合を目指して元消防士によって立ち上げられ、消防、防災関係者も在籍している。
- ・同団体では、「消防車型キッチンカー」を作り、そのキッチンカーでエンタメのイベントやお祭り等にて出店し、商品を販売するだけでなく、防災コンテンツを提供している。エンタメ要素を足すことで、普段は防災を意識していない人の防災意識の向上を目指す。



消防車キッチンカープロジェクト

2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

防災イベントではないイベントへの参加

- ・スポーツ観戦の屋台や、音楽フェス等の、防災イベントではない通常のエンタメイベントに消防車型キッチンカーで出店することで、防災に関心がない人が関心を持つきっかけを作っている。

全国に存在する消防士ネットワークの活用

- ・「消防車型キッチンカー」は模倣性の高いプロジェクトのため、誰もが取り組みやすいことが特徴。成功のモデルケースを実現した後、既に全国に存在する消防士のネットワークを有効活用し、この取組を全国的に広げることが可能である。

企画や商品開発を通じた関係者間のつながりの醸成

- ・主催者の消防士としての経験から、災害時の協力を得るため、平時から様々な団体と関係を築くことが重要と考えており、売る商品をあえて団体内で作らず、各所とパートナーシップを組みコラボ商品を提供する方針を採用している。



消防車キッチンカーへの来客者へ消火器訓練

3 取組の効果

防災意識が低い方へのアプローチに成功

- ・本事業の前身となる活動において、千葉市の稲毛海浜公園にてキッチンカーをレンタルして出店し、防災ワークショップのデモを行った。会場は防災に関しての意識が低い方も多い場所であったが、多くの方がキッチンカーを利用し、利用した方からは「面白い取り組み」という声も多く、関心が低い層へのアプローチに成功した。



防災イベントへ初出店時の様子

4 取組への想い

被災後の救助だけでは遅かった

- ・同団体のメンバーが消防士として勤務する中で、様々な災害現場を経験し、被災後の消防活動だけでは救えない命が多くあることに、悔しい想いをしてきたことがきっかけ。
- ・災害後の公助だけでは限界があり、自助、共助を向上させるために何かできないかと思った際に「防災の日常化」が必要不可欠だと思い、既存のキッチンカーにボランティアとして参加するところから、活動し始めた。

防災とは関係ない切り口からのアプローチ

- ・防災イベントや防災講話に携わるようになったが、来場者は既に防災に興味がある人が大半であった。防災に興味・関心が低い層へ伝えるにはどうすればいいのかと考え、市民との交流を増やすことを目的に、防災とは関係ない、SDGs をコンセプトとしたキッチンカーの手伝いやビーチクリーン、プレーパーク等の社会貢献活動をしてきた。その結果、防災のことに全く興味がない人と出会うことが多くなり、「消防士がこういった活動をしているのは珍しい」と興味を持たれることも相まって、興味・関心の低い層に「防災」の必要性を伝えることができた。
- ・これらの活動を通じて、消防士の仕事では経験できないことや今までだと会話の機会もなかった防災への関心が低い市民の声を直接聞くことができた。その結果、防災に関わる仕事や活動内容が広く知られ、防災従事者のモチベーションアップにつながった。



来客者への防災指導

全国に展開し、自助と共助の意識を高めていきたい

- ・車両をレンタルし、ボランティアで取組を行ってきたが、さらに活動を広げるために「消防車型キッチンカー」を作るクラウドファンディングを実施し、金額 559 万円、支援者数 239 人で目標を 110%強で達成した。消防車型キッチンカーで「命を守る」×「エンタメ」という新しい循環を生み出し、防災意識が薄い層はもちろん、防災に興味がありながら関わる機会がなかった市民や事業者等との交流を増やし、「今まで救えなかった人」を救う事を目指している。

5 防災・減災以外の効果

- ・多数のエンタメ系イベントにも招待されており、非防災関係者との関わりが増え、そこから新たな展開が見えることを期待している。

6 現状の課題・今後の展開等

- ・全国的に展開することで、より防災を日常化させるという目標の達成が早くなると考えている。そのために多くの協力者が必要不可欠であるため、今後、想いが同じメンバーや、支援いただける関係者を増やしていきたい。
- ・企業とのコラボ等や今までにない防災を伝える講演会、企業・個人向けの防災コンサルティング等を発展していく。

7 周囲の声

- ・「こういった取り組みをもっと増やしてほしい」（イベント参加者）
- ・「消防士の方とお話しできる機会はありがたい」（イベント参加者）
- ・「全国各地いろんなところに来てほしい」（イベント参加者）

担当者の声

- ・この活動に多くの方が共感頂き、多数の支援をいただいております。防災活動へのハードルが高さを感じている方にもご参加頂けるようなイベントの企画に努め、多くの命を救うための活動をしてまいります。

問合せ先

動画

サイト URL

一般社団法人日本消防防災 UNITE 機構

電話番号：090-5994-1277 E-Mail：lave_lifesave-74@yahoo.co.jp

—

